

I 基本編



1 くまもと「親の学び」プログラム ステップ（中高生期）編とは？

くまもと「親の学び」プログラムステップ（中高生期）編は、主に、中学生・高校生の子どもをもつ保護者を対象とした参加体験型の家庭教育講座（「親の学び」講座）を進行するための解説書です。

「親の学び」講座では、中学、高校の教職員（管理職の先生を始め、学級担任や養護教諭、部活動指導者などすべての先生方）やPTA役員の皆さん、家庭教育支援や子育て支援にかかわっている方々が、進行役（ファシリテーター）とすることができます。進行役は、一方通行の講義をするのではなく、伝えたいねらいやメッセージを明確にしつつ、参加者の気づきをサポートし、参加者と一緒に講座をつくりあげていく役割があります。

本解説書では、プログラムの基本となる展開例等を示していますので、参加者の人数や講座の時間、保護者の要望に応じて、アレンジして活用してください。また、スタート（乳幼児期）編、スマイル（小学生期）編の内容と組合せたり、関連をもたせたりすることもできます。

この「親の学び」講座を通して、子育て中の保護者が自信をもって、健やかな子どもを育てていこうという意欲を高め、親として大切なことを学ぶ一つの手がかりとなれば幸いです。

それぞれの機会に、このプログラムを活用していただき感想等をお寄せください。必要に応じて適宜増補したり、実践を紹介したりし、より充実した解説書にしていきます。



「キャンペーンロゴマーク」
「家庭」「地域」と「子ども」を組み合わせ、若葉のよ
うに健やかに伸びる子どもの明るい瞳と子どもを囲む
家庭、地域のまなざしを表現しています。
安富 勝弘さん(熊本市)の作品

2 参加体験型学習（ワークショップ）とは？

「親の学び」講座は、参加体験型学習（ワークショップ）という形で行います。

参加体験型学習では、講演会や講義のように、講師の話を参加者が一方向から聞いて学ぶのではなく、参加者同士で作業をしたり話し合ったりすることを通して、今まで気付かなかったことに気付いたり、大切なことを再認識したりすることができます。

参加体験型学習を組み立てるときには、次の3つのポイントを確認することが大切です。



☆参加体験型学習における3つのポイント

ポイント1 「一人一人が主役」という主体的・参加的な学習

参加者一人一人が「受け身」になるのではなく、それぞれが考え、言葉や文字で表現することによって、これまで自分が気付かなかったことに気付いたり、これまでの認識について、改めて大切であることを再確認したりすることができます。

そのためには、一人一人が参加しやすい雰囲気や発言しやすい雰囲気作りが必要になります。参加体験型学習を苦手としている参加者には、「無理せず、発言できるときに発言する。」「他の方の考え等を聞いて、感じたことがあったら教えてください。」というようなスタンスで気軽に参加してもらうように配慮することが大切です。

ポイント2 「互いに学び合う」という協力的な学習

グループ内で意見を出し合ったり、全体で考えたことやグループで話題になったことを紹介し合ったりすることを通して、これまでに気付かなかった多様な視点や考え方があることに気付いたり、共感したりすることができます。

そのためには、進行役は、参加者相互の意見を否定せずに聞く雰囲気をつくったり、多様な考えを引き出すような声かけを行ったりすることが大切になります。「参加者一人一人の意見によって、他の参加者の学びにつながっていく」という意識を、参加者の皆さんにもってもらえることが大切です。そうすることによって、自分と違う価値観をもつ人の意見も受け入れやすくなるからです。

ポイント3 具体的な活動を通して考える体験的な学習

具体的な活動（すごろくやサイコロを使っての活動や付箋紙に書き出し分類する活動等）や体験（ロールプレイやシミュレーション、ディスカッション等）をすることを通して、問題に気付いたりその解決方法を探求したりしようとするすることができます。活動（体験）すること自体が目的ではなく、その活動（体験）から感じたことを話し合い、生活と結びつけて考える過程が大切です。

そうすることによって、今まで気付かなかったことに気付いたり大切なことを再認識したりするなど、実践へと向けた気持ちをもつことができます。

3 進行役（ファシリテーター）の役割

参加体験型学習では、学習を進める「進行役」（ファシリテーターとも言われる場合がある）の役目が大切です。進行役は、参加者同士の話し合いや作業がスムーズに行われるよう、参加者の様子を見ながら説明や声かけをし、参加者自身が、「気付き」を得て何かを学ぶことを助けることがその役目です。講座の進行を通して、進行役自身も「学ぼう」という気持ちをもつことが大事です。

進行役に不安をもっている場合は、「二人で進行役をする」「短時間の講座や少人数の講座等から進行役を経験する」と、不安が軽くなります。



☆進行役に求められること

(1) 雰囲気づくり

- ・ 進行役は、笑顔が大切です。自信をもって、はっきりした声で、ゆっくりと話しましょう。
- ・ 話し合いの前に「正解や間違いはない」ことを参加者に伝えると、参加者は気が楽になり発言しやすく感じます。
- ・ 発言は、話せる範囲で話すとよいことを伝えましょう。参加者は安心して参加できます。
- ・ 参加者一人一人の人権が尊重され、安心して講座に参加できる場としましょう。

(2) 主体性の尊重

- ・ 参加者の意見を受けとめ、よく聞き、明るく丁寧な言葉で対応する等、参加者一人一人を大切にしましょう。また、進行役は人権尊重の視点を常にもって進行することが大切です。気になる発言等があった場合には、「なぜそう思うのか」「自分は〇〇と思う」と、問いかけることも必要です。
- ・ 参加者の意見を無理に一つにまとめる必要はありません。一人一人が気付きを得たり「なるほど」と再確認できたりすることを大切にしましょう。
- ・ 進行役自身の考えを押しついたり参加者の発言を批判したりしないことが大事です。

(3) 流れの調整

①参加者に合わせた進行

- ・ 参加者が活動や作業の手順などを理解しているかどうか、確かめながら進めましょう。
- ・ 参加者の様子を見て、予定より時間が必要と判断した場合には、時間を延ばしましょう。用意した内容の全てを行う必要はありません。（時間よりも早く進んでいる場合どうするか、時間が足りなくなりそうな場合どうするかを事前に考えておくと、その状況になったときに慌てなくてすみます。）

②テーマに沿った進行

- ・ 話題がテーマからそれた場合は、発言者の意見にも同調しながら、テーマに沿った話題に戻すように心がけましょう。

4 「親の学び」講座の組み立て方

「親の学び」講座を開催するとき、以下のことを考えましょう。



いつ？
(講座開催の機会)

★講座の開催については、本編「5プログラムの活用場面」を参考にしてください。いろいろなところで開催することができます。

①「親の学び」講座を中心に開催する場合

例：P T A研修会や教育講演会、家庭教育学級 等

②他の目的のために集まり、その中の一つとして「親の学び」講座を開催する場合

例：学年・学級懇談会やP T A総会、部活動の保護者会、入学説明会、地区懇談会、P T A役員会 等



だれと？
(集団の構成)

①同級生、同学年の子どもをもつ保護者の集まり

例：学年・学級懇談会、入学説明会、学年・学級P T A活動 等

②異年齢集団（子ども）の保護者の集まり

例：P T A総会やP T A研修会、部活動総会、地区懇談会 等



どのくらい？
(講座の時間設定)

①「親の学び」講座を中心に開催する場合

例：45分間や60分間の講座

②他の目的のために集まり、その中の一つとして「親の学び」講座を開催する場合

例：学年・学級懇談会、50分の中の20分間

地区懇談会の60分の中の30分間

P T A総会や部活動総会の始まる前の5分間 等



どこで？ どのくらいの人が？
(参加人数及び講座を行う場所)

①参加者は何名か。

- ・事前に参加者を募る場合は、参加人数の想定ができ、会場の広さを考えたり講座に必要な準備等もできます。
- ・当日にならないと何名が参加するかわからない場合は、グループ数や準備物等、その場で臨機応変に対応できるよう、心構えと事前の準備が必要です。

②どこ（会場）で行うのか。

- ・会場は人数に対して適当な広さか。その際、机や椅子の有無はどうか。
- ・講座はどこでもできます。その時の天候や参加人数、机や椅子の有無、進行役がパソコンやホワイトボードを使うかなどを考慮して会場を決めるとよいでしょう。

5 プログラムの活用場面

このプログラムの主な対象は、中学生・高校生の子どもをもつ保護者です。しかし、乳幼児期の子どもをもつ保護者や小学生の子どもをもつ保護者の方にも十分活用することができます。

【学校（中学校、高等学校）では・・・】

- ・ 学年・学級懇談会 ・ 地区懇談会（地区別研修会） ・ 入学説明会
 - ・ P T A 研修会（委員会ごとの研修会や全体の研修会で）や教育講演会
 - ・ P T A 総会の始まる前や総会の中で ・ P T A 役員会、運営委員会
 - ・ 教職員の校内研修 ・ 学校行事（学習発表会や学年行事の始まる前）
 - ・ 部活動総会の始まる前や部活動ごとに保護者が集まったとき
 - ・ 学年、学級 P T A 活動（体験活動やレクリエーション）の始まる前 等
- [さらに、小学校では]
- ・ 一日体験入学 ・ 就学時健康診断で保護者が集まったとき

【地域では・・・】

- ・ 町村郡市 P T A 連合会の研修会 ・ 公民館講座で
- ・ 各団体が実施する家庭教育学級 ・ 単位子ども会での親の集まり 等

【その他幼稚園、保育園、子育てサークル等では・・・】

- ・ 保育参観後の保護者会 ・ 家庭教育学級するとき
- ・ 役員会や説明会（会が始まる前やその会の中の時間で）
- ・ 遠足や発表会等で親が集まったとき（行事が始まる前の時間に）
- ・ 子育てサークルの定例会 等



6 プログラムの特徴や内容

(1) セクション1：「気付く・振り返る」きっかけプログラム

① 特徴

- ゲームを通して気付きを得るものや目的をもったゲーム的な活動です。
- PTA総会、研修会や部活動総会、学年・学級懇談会等、何らかの集まりの場で、会の始まる前や会の途中で簡単に行うことのできるプログラムです。
- セクション2やセクション3のプログラムの導入（アイスブレイク）として活用することもできます。
- 2～5分程度の短時間でできます。
- 子どもと一緒にできます。また、授業の始めや集会活動の時など、子どもたち自身も活用することができます。

②内容等

プログラム番号	プログラム名	実施時間	キーワードの例	内容
1	リラックスタイム ～力をぬいて～	2分	リラックス	肩の力や全身の力を抜き、リラックスする。
2	わたしはあなたのががみ ～動きを合わせて～	3分	しっかり見る コミュニケーション	相手の動きをよく見て、同じように手を動かす。
3	あったか家族川柳 ～言葉に込められた思い～	5分	家族のかかわり	家族のかかわりをテーマにした詩や川柳の一節を考える。
4	かさなったら、パン！ ～心をあわせて～	5分	過程が大事	進行役の手が重なった時に、手拍子をする。
5	箱の中は？ ～正確に伝えよう～	5分	適切に話すこと 正確に聴くこと	箱の中のものの特徴を伝え、それを聞いて何かを考える。
6	連想ゲーム ～考えを広げて～	5分	イメージの多様性	ヒントの言葉を聞きながら、情景をイメージする。
7	見えるものしりとり ～しっかり見て～	5分	しっかり見る	見える範囲から探したもので、しりとりゲームをする。
8	クイズ王になろう ～もっと知って子どものこと～	5分	親としての知識	子どもの現状（交通安全や心と体のこと）をクイズで考える。

【事前の準備】

- 時間、場所、参加者の人数等を考慮して、どのプログラムを活用するか決める。
- 一斉にするかグループで行うか決める。
- 必要に応じてパソコン等を用意する。

《プログラムの進め方》

- ①方法を知らせる。
- ②やってみる。
- ③感想を聞く。
- ④まとめを話す。

(2) セクション2 :

「広げる・つながる」コミュニケーションプログラム

① 特徴

- ゲーム的な感覚の活動で、他者（参加者同士、親子）とコミュニケーションをとることができます。活動を通してお互いが親しみをもち、つながりを意識することができます。また、保護者の仲間の幅を「広げる」ことができます。
- 20分程度でプログラムを行うことができ、学年・学級懇談会や地区懇談会、PTA役員会等いろいろな場で、本来の会議等との組合せで行うことができます。
- セクション1のプログラムとの組合せを工夫すると効果的です。

②内容等

プログラム番号	プログラム名	実施時間	キーワードの例	内容
9	子育てすごろく ～中高Version～	20分	コミュニケーション	すごろくの話題をもとに自己紹介をする。
10	つながりビンゴ ～聴いて、話して、親しくなろう～	20分	保護者のつながり	ビンゴカードの話題をもとに自己紹介をする。
11	サイコロトーク ～聴かせて、あなたの考え～	20分	多様な考え	サイコロの出た目の話題をもとに自分の考えを紹介する。
12	プラスの表現 ～認め・ほめ・励まし・伸ばそう～	20分	多様な見方・考え方	逆転の発想等を知り、プラスに表現する形容詞を使って、子どもを紹介をする。
13	メッセージ for You ～伝えよう親の気持ち～	20分	伝えたいこと	子どもへの願いを考え、子どもに宛てたメッセージを書く。
14	ファミリーアクション Yes or No ～あいさつ、手伝いどうしてる～	20分	あいさつ、役割	家庭でのあいさつや手伝い(役割)について考える。

【事前の準備】

- 目的や参加対象等を考慮して、どのプログラムを活用するか決める。
- 準備物(すごろくセットやワークシート等)は必要数よりやや多めに用意する。
- 会場を考える。(椅子だけでは活動が効率的でない時がある)

《プログラムの進め方》

- ①活動の方法を知らせる。
- ②やってみる。
- ③感想をお互いに発表し合う。
- ④まとめを話す。

(3) セクション3 : 「深める・見つめる」親の役割プログラム

① 特徴

- PTA研修会や地区懇談会、学年・学級懇談会に研修として活用することができます。
- 親の役割等についてじっくり考えることのできるプログラムです。
- 参加者が自分の考えを話したり他の人の意見を聞いたりすることを通して、自分自身を見つめたり新しい価値観に触れたりすることで、子育てに対する不安や悩みが軽くなります。また、子育てに対する自信へとつながります。
- セクション1やセクション2のプログラムと組み合わせることもできます。

②内容等

プログラム番号	プログラム名	実施時間	キーワードの例	内容
15	ちょっと待ってよケータイ ～わが家の情報モラル～	25分	携帯電話とルール	携帯電話所持のメリットや危険性について考えたり、家庭でのルールについて話し合う。
16	やってみよう、 聞き方エトセトラ ～今日からあなたも聞き上手～	25分	わが家の聞き方	ロールプレイングで3種類の聞き方を体験し、会話をするときのポイントについて考える。
17	未来予想S ～10年後の子どもとわたし～	25分	10年後のわたし	子どもとのかかわりを振り返り、10年後の姿を考える。
18	子どもの夢サポート ～進路選択と親のかかわり～	30分	子どもの進路	子どもの進路選択に際しての親のかかわり方を考える。
19	子どもの悩み熟議 ～どんな悩み、誰に相談～	30分	悩みと相談相手	子どもの悩みや相談相手について考えたり親のかかわり方を話し合ったりする。
20	感情ランキング ～子どもの気持ちになってみよう～	30分	子どもの気持ち	「感情ランキング」を通し、子どもの悩み等に関心をもち、子どもとのかかわり方を考える。
21	親の役割3か条 ～親の目・子の目～	30分	親の役割3か条	子どもの立場で「親とのかかわり方」を考えたり、親の役割について話し合ったりする。
22	聞いて、聞いて、わたしの悩み～子どもの異性とのつきあい方～	45分	悩みの共有	種々の悩みへのアドバイスを通して、多様な考えがあることや悩みは誰にもあることを知る。

【事前の準備】

- 目的や参加者の所属、時間、場所等を考慮してどのプログラムを活用するか決める。
- セッション1やセッション2のプログラムとの組合せができるかどうか考える。
- ワークシートなどの準備物がある場合は、必要数を調べやや多めに用意する。
- 提示するキーワード等の資料は保管しておき、次回からの講座で活用するようにする。



《 講座の進め方 》

1 アイズブレイク



※簡単なゲームで
心と体をほぐします。



2 ねらいの確認



※キーワードを提示
ねらいを確認します。



4 まとめ



※進行役の意見を押しつけるの
でなく、温かい雰囲気で行われ
るように心がけましょう。



3 グループ活動



※グループ活動のあと、全体
で意見を共有しましょう。
(個人→グループ→全体)

☆受講者、進行役、誰もが気をつけることはすべての人に敬意を払うことです。
参加者の誰もが安心して話せるように、講座中に聞いたプライベートな情報を他の場所で話すことは厳に慎むよう参加者に伝えましょう。

【参考】

スマイル（小学生期）編プログラム一覧

	プログラム名	時間	キーワード	プログラム名	時間	キーワード
ステップ 1	①後出しじゃんけん	3分	固定観念	②バランスをとろう	3分	時間の感覚 継続
	③リズムにのって動かそう ～指体操・腕体操～	3分	リズム 継続	④パンパンタッチ	5分	予測 相手に合わせて
	⑤聞いて、聞いて、リズムよく	5分	きく	⑥それ、私！ (子育て版フルーツバスケット)	5分	一人じゃないよ
	⑦だれだろう？何だろう？	5分	きく 正確な情報			
ステップ 2	⑧アイコンタクトで意思表示	15分	コミュニケーション	⑨頼って信じてウォーキング	15分	コミュニケーション
	⑩何と言ったかな？きいて、きいて！	15分	「聞く」と 「聴く」	⑪トーク&トーク ～すごろく de 紹介～	20分	コミュニケーション
	⑫話して！聞いて！ ～わいわいがやがやサイコロトーク～	20分	コミュニケーション	⑬あなたはどうか考えますか？ ～1枚の絵から広がるイメージ～	20分	多様な見方
	⑭わたしの考え、あなたの考え ～いろいろな考えを聞いてみよう～	20分	いろいろな考え			
ステップ 3	⑮よく使う言葉は？ ～言葉の力について考えよう～	20分	言葉の力	⑯これって「反抗期」？ ～子どもも成長、わたしも成長～	25分	親のかかわり方
	⑰子育てで広がる夢・喜び ～子育ての歩みとこれから～	30分	歩みと見通し	⑱わが家で大事にしたいこと	40分	わが家の1か条
	⑲ニコニコ、パクパク。 わが家の食事！	40分	食生活	⑳伝え方のひと工夫 ～みんなの気持ちを考えて～	45分	コミュニケーション
	㉑だれにだって悩みはある ～一人で悩まず、話してみよう～	45分	悩みの共有	㉒地域の子どもは地域みんなで育てよう ～ステキな「ひと・もの・こと」～	45分	地域のよさ、ひと、もの、こと

スタート(乳幼児期)編プログラム一覧

①わが家の家庭教育	60分	わが家のルール	②一人じゃないよ仲間がいるよ ～悩みも喜びも誰にでもある～	60分	喜び、悩み
③子どもの気持ちと親のかかわり	60分	子どもの気持ちと親のかかわり	④上手なほめ方、しかり方 ～伝え方のひと工夫～	60分	子どものほめ方、しかり方
⑤家族みんなで生活リズム	60分	生活リズム	⑥上手な話の聞き方 ～聞き上手は子育て上手～	60分	聞き方